

校長室の窓からNo. 3 (H28. 6. 28)

シリーズ「成長の実感について③」

～「スランプや逆境に負けない力を伸ばす」～



どの人にも頑張っ て取り組んでいく中で、高原状態（いわゆるスランプ）があります。努力に比例して順調に学業成績やスポーツ成績等、多種多様な方面で成果が上がる場合もありますが、そうでない場合があります。また、すぐに効果が現れる場合と時間を要する場合とがあります。そのため、途中で「努力しても（頑張っても）向上しない。」というように早々に判断してしまうことがよくあります。しかし、日本教育技術学会会長の向山洋一氏は、著書『教師修業十年』『向山式勉強のコツがよくわかる本』等で、「誰でも、目標に向けて100日以上努力し続ければ確実に効果が現れる。」「スランプは、誰もが向上する上で必ず通る道である。」「成長曲線が努力曲線を上回る日は必ず訪れる。」などと述べています。ですから、どんなに長くとも3ヶ月くらい粘り強く努力し続ければ、全ての子どもたちが効果を実感するということとなります。また、励ますなど、周りの人のサポートが大切です。



さて、長い人生の中では、逆境に遭遇する場合が大なり小なりあります。

宮本延春氏は、著書『オール1の落ちこぼれ、教師になる』の中で、次のように述べています。その内容は、私自身もたいへん驚きと感銘を受けるものとなりました。それは、小・中学校時の転校の繰り返しや小学校3年生頃からの精神的・肉体的な酷い「いじめ」を受けたことなどで、中学校1年生のときに「オール1」になったこと。宮本氏が10代のうちに、お父様とお母様がお病気で亡くなくなりになられたことが書かれていました。まさに逆境というほかはありません。その後、建設業の社長様や少林寺拳法の道場で出会った現在の奥様をはじめ、周囲の方々の温かい励ましと支えがあり、20歳くらいから少しずつ勉強するようになりました。そして、1992年（宮本氏が23歳のころ）にテレビで放映されたNHKスペシャル「アインシュタインロマン」を視聴しことがきっかけで、本格的な勉強（小学校算数ドリルをはじめ独学で勉強）を開始することになりました。そして、24歳で高校の定時制に入学したことを皮切りに、27歳でアインシュタイン博士が研究していた相対性理論に憧れて、名古屋大学理学部物理学科に進路を考え見事に入学することができました。その後、専門である素粒子宇宙物理学の研究に没頭し、36歳で高校の数学教師となりました。その後、38歳のときに、内閣教育再生委員の義家弘介氏の後任として起用されるまでになりました。20歳を過ぎて算数ドリルからのスタートですから、ものすごい精神的回復力といえますか自発的治癒力が作用したのではないかと思います。

スランプや逆境に負けない力を伸ばすための研究も進められています。それは、「レジリエンス」と言われているもので、精神的回復力・自発的治癒力等の力を表しています。**研究の成果としては、「家族や友人等の社会の絆」「自己効力感の経験」「基本的な生活習慣の確立」「ポジティブな考え（プラス思考）」「自尊心を高めるほめ言葉」「具体的な目標を考え行動すること」等が効果的作用であることがわかってきています。**「レジリエンス」の研究は、もともとPTSD（外傷後ストレス障害）の治療や効果についての研究から生まれてきた内容です。

向山洋一氏の実践や宮本延春氏の実話は、多くの教員や保護者の方々、子どもたちに勇気と希望を与えてくれました。学校は、今後も子どもたちを勇気づけ励まし伸ばす場となる必要があります。本校においても、取組の仮説検証に子どもの自己評価や感想を取り入れるなどして成長や変化を見とるとともに、客観性を高め、達成感・充実感を味わう「一人ひとりが自分の成長を実感する、らしさが際立つ学校を創る」を本年度の重点目標として取り組んでいるところです。